

主な開発品

ONO-4164SC/BMS-188667SC 注射剤

ONO-4164SCは、オレンシアの皮下投与製剤で、関節リウマチを対象として開発を進めています。本剤はT細胞を活性化するシグナルを阻害することでサイトカインの分泌を抑制し、関節の炎症を鎮静化します。なお、オレンシアの静脈内投与製剤は既存治療で効果不十分な関節リウマチを対象に上市されています。

国内：関節リウマチ フェーズⅢ（プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発）

海外：関節リウマチ 承認取得（プリストル・マイヤーズ スクイブ社）

ONO-7165/EMD531444 注射剤

ONO-7165は、リボソームワクチンで、非小細胞肺癌を対象として開発を進めています。本剤は腫瘍抗原であるMUC-1を標的とするがん免疫療法薬で、この腫瘍抗原を免疫細胞が認識して、腫瘍細胞を攻撃すると考えられています。

国内：非小細胞肺癌 フェーズⅡ（独メルク社と共同開発）

海外：非小細胞肺癌 フェーズⅢ（独メルク社）

ONO-4641 錠剤

ONO-4641はSIP（スフィンゴシン-1-リン酸）受容体作動薬で、多発性硬化症を対象として開発を進めています。本剤は血中のリンパ球をリンパ節にとどめ、血中のリンパ球数を減少させる作用を持つ低分子化合物であり、その結果として病巣へのリンパ球浸潤を抑制することで、難病とされる多発性硬化症などの自己免疫疾患の画期的な治療薬になるものと期待しています。

国内：多発性硬化症 フェーズⅡ（日米欧三種での国際共同治験）

海外（米国、欧州）：多発性硬化症 フェーズⅡ（日米欧三種での国際共同治験）

ONO-3849/Methylnaltrexone bromide 注射剤

ONO-3849は末梢の μ オピオイド受容体拮抗薬で、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘を対象に開発を進めています。オピオイド鎮痛薬はがん性疼痛に対して主に使用されていますが、副作用として難治性の便秘を伴いますが、副作用として難治性の便秘を伴います。本剤はオピオイド鎮痛薬の鎮痛効果に影響を及ぼすことなく、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性の便秘を改善する薬剤です。

国内：オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘 フェーズⅡ

海外：発売中（プロジェニックス社）

ONO-7643/RC-1291 錠剤

ONO-7643は低分子のグレリン様作用薬で、がん悪液質を対象として開発を進めています。本剤は食欲増進や筋肉増強などの生理作用を有するホルモンであるグレリンと同様の作用を持つ低分子化合物であり、がんの進行に伴い食欲不振、体脂肪量や筋肉量の低下を特徴とする全身消耗状態(がん悪液質)にある患者さんのQOLを改善する画期的な薬剤になるものと期待しています。

国内：がん悪液質 フェーズⅡ

海外(米国など)：がん悪液質 フェーズⅢ(ヘルシン社)

ONO-2745/CNS 7056 注射剤

本剤はGABA_A受容体作用を有する短時間作用型全身麻酔薬で、全身麻酔時の導入・維持、および集中治療における人工呼吸管理中の鎮静剤として開発を進めています。本剤はエステラーゼと呼ばれる酵素によって速やかに代謝され、薬剤投与終了後速やかに鎮静効果が消失することから、調節性や安全性に優れた薬剤になるものと期待しています。

国内：全身麻酔 フェーズⅡ

海外(米国)：フェーズⅡ(バイオン社)

ONO-4538/BMS-936558 注射剤

ONO-4538は完全ヒト型抗PD-1抗体で、がんなどを対象として開発を進めています。PD-1は、リンパ球の表面にある受容体の一種で、生体において活性化したリンパ球を沈静化させるシステム(負のシグナル)に関与しています。がん細胞は、このシステムを利用して免疫反応から逃れているという研究成績が報告されています。ONO-4538は、リンパ球を沈静化させるPD-1の働きを抑制することで、がん細胞やウイルスを異物と認識してこれを排除する免疫反応を増進するものと期待しています。

国内：悪性黒色腫 フェーズⅡ

海外(米国など)：腎細胞がん フェーズⅡ(プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

海外(米国)：C型肝炎 フェーズⅠ(プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

ONO-7057/Carfilzomib 注射剤

ONO-7057はプロテアソーム阻害剤で、多発性骨髄腫を対象として開発を進めています。血液細胞の1つである形質細胞のがんであり、予後不良とされる多発性骨髄腫の新たな治療選択肢になるものと期待しています。

国内：多発性骨髄腫 フェーズⅠ/Ⅱ

海外：多発性骨髄腫 フェーズⅢ、米国は迅速承認申請中(オニクス社)

主な開発品

ONO-5334 錠剤

ONO-5334はカテプシンK阻害剤で、骨粗鬆症を対象として開発を進めています。ビスホスホネート製剤と異なり、骨形成に影響を及ぼさず、骨吸収のみを抑制する新しい作用メカニズムの骨粗鬆症治療剤です。

国内：骨粗鬆症 フェーズⅠ

海外(欧州)：骨粗鬆症 フェーズⅡ

ONO-3951 / Asimadoline 錠剤

ONO-3951は κ オピオイド受容体作動薬で、過敏性腸症候群を対象に開発を進めています。3種類あるオピオイド受容体(μ 、 κ 、 δ)のうち、消化管の痛みや運動に関与しているといわれる κ 受容体を選択的に作用し、腹痛をはじめとする種々の腹部症状を改善する薬剤です。

国内：過敏性腸症候群 フェーズⅠ

海外(米国)：過敏性腸症候群 フェーズⅢ(タイオガ社)

ONO-6950 錠剤

ONO-6950はロイコトリエン受容体拮抗薬で、気管支喘息を対象に開発を進めています。気道炎症を抑制することにより、気管支喘息患者さんの症状改善が期待されます。

国内：気管支喘息 フェーズⅠ

海外(米国)：気管支喘息 フェーズⅠ

ONO-7746 カプセル(日産化学工業株式会社より導入)

ONO-7746は体内において血小板の産生を促進する造血因子であるトロンボポエチンの受容体を活性化することにより血小板を増加させる経口投与が可能な低分子化合物で、血小板減少を伴う種々疾患の出血リスクの軽減や血小板輸血に伴う感染リスクを克服する薬剤として開発できるものと期待しています。なお、日産化学工業は原薬の開発・製造を担うなど、共同して開発を進めています。

海外(米国)：血小板減少症 フェーズⅠ

ONO-2952

錠剤

ONO-2952は主に中枢においてニューロステロイドの産生に關与するTSPO(トランスロケータープロテイン)拮抗薬で、過敏性腸症候群を対象に開発を進めています。ストレスが脳腸相関の異常を引き起こすメカニズムを遮断することで、過敏性腸症候群の諸症状を改善することが期待されます。

海外(米国)：過敏性腸症候群 フェーズI

ONO-4053

錠剤

ONO-4053はプロスタグランジンD2受容体拮抗薬で、アレルギー性鼻炎を対象に開発を進めています。鼻閉、くしゃみ、鼻汁といったアレルギー性鼻炎の3主徴のなかで、特に鼻閉に対する改善効果が期待されます。

海外(欧州)：アレルギー性鼻炎 フェーズI

■効能追加等

イメンドカプセル

国内：抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 申請中
(小児での効能追加)

グラクティブ錠

国内：2型糖尿病(速効型インスリン分泌促進剤との併用療法) フェーズIII(効能追加)(米メルク社と共同開発)

注射用オノアクト

国内：心機能低下例における頻脈性不整脈 フェーズII/III

オパルモン錠

国内：手根管症候群 フェーズII
(大日本住友製薬株式会社と共同開発)